

## 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年3月29日

事業所名：合志市社協「れんがの家」

チェック項目		はい	どちらでもない	いいえ	無回答	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	2	0	・クラス分やパーテーション等を使っての空間づくり、活動によっては他事業との部屋の共有等の工夫を行っている。	施設の指定基準以上を満たしている。 今年から新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策のため、年齢によるクラス分けを行い、他事業所と部屋を共有するなどの工夫しながら部屋を分けて活動を行っている。 また、パーテーションを使用し、利用児が活動しやすいよう空間づくりにも配慮している。
	② 職員の配置数は適切である	6	0	1	0	日々が固定化したメンバーではないので流動的に対応している。	人員配置基準以上に、保育士、児童指導員の加配2名、作業療法士、言語聴覚士（臨時）を配置している。また年齢、発達によるクラス分けを行っており、利用人数により流動的に職員を適切に配置している。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	0	0	・集団療育の中で個人にわかりやすい環境や配慮となるよう日々調整を行い、本人が出来た体験を重ねられるよう工夫している。 ・ベースが民家なのでどうしても専門の施設のようにいかない所もあるが、可能な限りわかりやすく、過ごしやすい環境となれるようにしている。	・集団療育の中で個人の特性を考慮し、それぞれの児童が自発的に行動しやすいよう、限られた空間をパーテーションやカーマットを用い工夫している。また、視覚優位の児童には個別でスケジュールボードを作成するなど、写真、絵カードを利を利用し、わかりやすい方法で自発的な行動ができるよう配慮している。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	0	0	・利用前後で調整を行い利用後の掃除を徹底している。1フロアである為活動ごとにパーテーションを使い空間作りを行っている。	・パーテーションを使用し、利用者、活動にあわせ構造化し、空間作りを行っている。こどもの状況に合わせた空間を設定できるよう、パーテーションは創意工夫をしながら製作している。 ・使用前後の清掃、玩具、教材等はアルコールを使用した消毒を徹底して行い、感染予防に努めている。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	0	0	0	・朝のミーティング、振り返り、個別支援会議に職員が参加できるよう時間帯や曜日の調整を行っている。 ・朝夕の申し送りやミーティングノートなどを活用している。	毎朝ミーティングで、当日利用児の状況及び目標確認を行ない、活動後振り返りの時間を設けている。また、全職員が情報を共有できるよう、ミーティングノートを有効活用している。 毎週、個別支援会議、ミーティングを行い全職員が出席できるよう調整し、利用児について全職員で理解し支援できるよう努めている。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	0	1	・事業評価はもちろん保護者会で集まった保護者からの意見や日々の連絡帳、送迎時にいただいた意見を業務改善につなげるよう努力している。	・今後も継続し実施し、検討していく。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	0	1	毎年保護者に伝わりやすいアンケートの実施をおこない、評価を社協ホームページに掲載している。	社協ホームページに掲載、事業所内に閲覧用を設置し公開している。

	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	無回答	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	0	0	4		今後、第三者評価を取り入れていく予定である。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0	0	・各研修は周知し全員が参加できる業務調整が行えている。	・業務を調整し、全員が外部研修へ参加できるよう努めている。また、職員間での内部研修を行い資質向上に努めている。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	0	0	・保護者様からいただくアセスメントシート、遠城寺式、乳幼児式分析的発達検査表、JSI-R、質問応答関係検査等を使用し計画等を作成している。 ・個別支援会議を通して行っている。連絡帳や相談員の情報収集に努めている。	保護者へのアセスメントに加え、発達簡易検査等を行い、個別支援会議において職員間で検討をした上で個別支援計画を立案作成している。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	0	0	・アセスメントシートを作成して、必要にあわせ見直しも行っている。	・保護者記入のアセスメントシートを作成している。見直し予定。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	0	0	・計画書の書式により子どもの支援に必要な項目が選択しやすいよう工夫している。今後もより具体的な支援内容を設定できるよう書式の見直しが必要であると考えている。	・児童発達支援ガイドラインに基づき、支援が必要な項目を選択、計画書に具体的な内容を記載している。書式についてよりわかりやすいよう検討していく。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	0	0	・行っている。あわせて評価し改善を日々行う努力している。	朝のミーティングにおいて個別支援計画に沿ったそれぞれの目標を確認し、活動後の振り返りを行いながら支援を行っている。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	0	・他職種で子どもの支援を行っている為日々話し合いプログラムを立案している。 ・スタッフ間でPDCAサイクルを行っている。	保育士、作業療法士、音楽講師など、異職種のスタッフで子どもたちが楽しく活動に取り組めるよう日々検討しながら計画立案している。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	0	固定化しがちになるが出来る限りのプログラムを考えて提供できるように行っている。	子どもたちが楽しみながら活動に取り組めるよう、集団活動、季節行事、個別活動、地域交流、リトミックなど様々な活動を取り入れるよう努めている。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	0	0	・クラス分や今後は療育形態を変化させるなかで、個別と集団を組み合わせたい。 ・急な数の変動やスタッフの体調不良など不測の事態を除いては適宜組み合わせることが出来ている。	年度途中に子どもの年齢、発達に応じてクラス分けを行い、より発達に応じた支援に努めた。次年度は形態的に個別と集団の活動時間を設定し、より丁寧な療育を目指す。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	0	・毎朝ミーティングにて確認を行っている。 ・開始前に必ず全ての職員が参加しその日の支援の打合せを行っている。	毎朝ミーティングを行い、全職員で支援内容を共有し役割についても確認を行なっている。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	0	1	・振り返りを行っている。 ・振り返りを行っているが勤務の形によって参加の人数にバラツキがあるのは課題。	振り返りの時間を確保している。全職員揃う時間が勤務形態上難しいが、ミーティングノートにより情報共有を行っている。
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0	0	・記録を徹底している。記録を踏まえてミーティングを行い、PDCAサイクルに取り組んでいる。 ・その日のことは特記として必ず記入を行っている。	・個別に記録を行っている。書式について、支援内容、評価、特記等要点がわかりやすく業務の効率化を観点に改善を行っていく。
⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	0	個別支援会議にてモニタリングを行い検討を重ねている。	・個別支援会議の中で、モニタリングを行いその都度検討をしている。	

	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	無回答	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	0	0	・相談員と連携を行い最もふさわしい者が参加できる体制づくりを行っている。	・相談員と連携を図りながら、児童発達支援管理責任者に加え、担当保育士や専門職員（作業療法士）が出席している。必要に応じて同法人内の看護職員の参画を依頼していく。
	㉑ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	0	1	市保健師と保護者の了解を得て、連携をとっている。	市健康福祉課、子育て支援課、その他連携機関と必要に応じて連携をとっている。
	㉒ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか					医療関係の情報は、保護者や担当相談支援専門員より収集しており、他事業所等とも必要に応じて連携をとっている。	保護者や相談支援専門員から情報を収集し、医療機関と連携しながら、緊急時について統一した対応ができるよう職員のスキルを高め受け入れ態勢を整える。
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか					必要性があることへの対応し、緊急時に備え緊急時マニュアルを作成している。	すべての児童に共通して、緊急時対応を要する事態に備え、個別にマニュアルを作成していく。
	㉔ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	0	0	・必要な場合は提供を行うとともに共有を図っている。	主に送迎時、各保育園、認定こども園、幼稚園と情報共有と行っている。必要な場合、会議を開くなど今後も適宜おこなっていく。
	㉕ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	0	1	・必要な場合は提供を行うとともに共有を図っている。	就学を前に保護者からの以来により小学校や放課後等デイサービス事業所に対し、適切な情報提供を行うよう努めている。今後は支援シートを作成し、本人の状況や支援内容を伝えられるよう移行支援を行っていく。
	㉖ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0	0	0	児童発達支援センター等の研修会に全職員が参加できるよう調整している。	菊池圏域地域療育センターや発達障がい者支援センター等が主催している研修会へ参加している。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催がなかったため、今後ICTを利用し積極的に機会を設けていく。
	㉗ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6	0	0	1	・コロナにより交流が難しい場合がある。	法人内の保育園、児童館、高齢者デイスサービス等とイベントや季節行事を通して交流をおこなっている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施していない。
	㉘ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	0	0	3	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催なし。	管理者が参加し、全職員に周知するよう努めている。
	㉙ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0	0	日々の送迎時に保護者へ直接伝えている。園送迎の家庭については、連絡帳に子どもの状況であったり、支援の手立てであったりを記載することで、詳細を伝え共通理解を図っている。	・連絡帳を通して日常的に状況を伝えるとともに、送迎時に詳しく状況を伝え、その場で共通理解を図っている。 ・園送迎で保護者に直接会えないケースについては、モニタリングや担当者会議など、定期的な機会を設けている。

	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	無回答	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③① 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	0	2	3	保護者会や親子活動を通して、保護者への支援を深めている。	・今年度新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者会の開催回数が計画より減ってしまった。
	③② 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	0	0	契約時に書面を通じて詳しく説明を行っている。変更があった場合は、随時保護者へ伝えている。	必要に応じて保護者説明会を開催している。今後も保護者により理解してもらえるよう、継続して開催していく。
	③③ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	0	0	児童発達支援ガイドラインに基づき、職員全体で支援内容を考慮し、個別支援計画を作成している。保護者に渡す際に説明を行い同意を得ている。	今後も継続していく。
	③④ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	0	0	随時相談に応じている。保護者会を年間で計画し、その際に保護者からの相談を受ける機会を設けている。	回数を増やすよう努め、今後も継続していく。
	③⑤ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	0	0	0	年間計画では4回ほど保護者会を予定していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、時期を考慮し、感染予防に努め2回開催した。	保護者会を開催することにより、親子活動や子どもを介して、保護者の横のつながりのできるようコーディネートしていく。
	③⑥ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0	0	窓口を作っている。また、保護者からの要望や相談については迅速にミーティングをおこない職員間で共有している。	窓口で対応しつつ、担当職員からも詳細を伝えられるよう、また必要があれば上司に相談し適切に対応できるよう体制を整えている。
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0	0	・月に1回の広報を発行している。 ・今年度、写真を活用し、活動の様子がわかりやすいようお便りをリニューアルした。	月1回「れんがだより」を発行し、主に活動の様子を伝えている。また、緊急時の連絡方法として、公式ラインを開設し、伝達の時間短縮を図った。
	③⑧ 個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	0	0	・社会福祉協議会の個人情報保護規定に基づき、適切な管理をおこなっている	全職員が個人情報保護に関して自覚を持ち業務にあたるよう、個人情報保護に関する研修をおこなっている。
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0	1	こどもの特性を考慮し、視覚優位の子どもには文字やイラスト等、理解しやすい手段を考慮し工夫している。	今後も継続し、特性を考慮した対応をおこなう。
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	0	0	2	「れんがの家」の行事にボランティアや地域住民の方に参加していただけるよう、イベント内容を考慮している。また、読み聞かせのボランティアに来ていただき、定期的な交流を図っている。	今後も子どもたちが地域で安心して暮らせることを目標とし、地域とのつながりを意識した行事を計画していく。
	④⑪ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1	0	0	緊急時対応、防犯、感染症対応それぞれについて職員間でシュミレーションしながら各マニュアルを策定している。また、契約時に各マニュアルを抜粋し説明している。	それぞれのマニュアルの見直しを図り、保護者への周知を行なっていく。
	④⑫ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	1	0	年2回、火災、地震など必要に応じた避難訓練をおこなっている。	計画に基づき、必要に応じた内容の訓練を実施していく。

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	無回答	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	0	0	利用開始前に、薬に関する情報収集やこどもの身体状況のアセスメントをおこなっている。予防接種、アレルギーに関する情報提供も書面にて必ず行っており、確認できている。	利用開始から、年度最初に児童票を記入提出してもらい、情報の更新をおこなっている。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	0	0	事前のアセスメントにて、食べれない食物やまだ食べたことがない食物に関する確認し、確認用紙を提出してもらっている。	今後も利用開始前に、必ずアセスメントをおこない、書面にて確認していく。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0	0	事故報告について、小さなことでも保護者に報告し、上司に報告、報告書を課内で共有し、再発防止につとめている。	今後も報告を義務とし、全職員で解決法を検討し、再発防止に努める。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	1	2	虐待防止に対する研修を、年間計画に沿っておこなっており、全職員で研修に参加できるような体制を整えている。	事業所内に虐待防止委員会を設置し、虐待を防止する研修を実施し、職員の意識の向上を図る。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	0	0	3	身体拘束について、こどもの特性に合わせて安全を配慮し、一時的に行動を制止しクールダウンのため個別対応が必要な場合は、保護者の同意を得て個別支援計画書に記載し対応するが、現在は対象の利用児はいない。	身体拘束について、事業所内で委員会を設置し組織的な適正な対応を検討していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。